

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森県八戸市立種差小学校
授業者	阿保 祐一

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「種差」、大発見！

1-2. 学年

1～6年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活、総合、社会

1-4. 単元の概要

自分の住む種差の「ひと・もの・こと」と関わることで、種差を知り、大事に思い、地域への愛着と誇りの育成を目指し、様々な体験活動に取り組んだ。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

体験活動を通して、種差を知り、好きになり、地域に誇りと愛着をもたせる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

ふるさとの海を愛し、守ろうとする信条を育てる

- ・種差の産業や特徴、「ひと・もの・こと」を知り、ふるさと種差に対する誇りと愛情を育成する
- ・自分の調べたことや考えを伝える力の育成
- ・よいところを見つけながら聞こうとする態度の育成

1-7. 単元の展開（全29時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	ウニの殻剥き体験 ・殻のついたウニの様子を観察する。 ・ウニの殻の向き方と使う道具について知る。 ・実際に殻剥きを体験する。 ・おいしくいただく。	外部連携 深久保漁業生産部及び婦人会 評価：ウニの体のつくりを観察できたか。
2	地引き網体験 ・昔から行われていた漁法について知る。 ・網の引き方を教えてもらう。 ・体験する。 ・獲れた魚を観察する。	外部連携 深久保漁業生産部 保護者 評価：地引網体験を通して、魚やカニなどに触れ、海に親しむことができたか。
8	水族館見学 ・マリエント（八戸市）見学。八戸市近海の魚について知る。 ・もぐらんぴあ（久慈市）見学。久慈市近海の魚について知る。 ・八戸市と久慈市の海を比較する。	外部連携 マリエント（八戸市） もぐらんぴあ（久慈市） 小袖海岸海女センター（久慈市） 評価：八戸市と久慈市の海の陽を比較し、似ている点や違う点にきづくことができたか。
5	凧作り・凧揚げ ・するめ天旗について知る。 ・凧絵を描く。 ・凧作り（たて骨、弓骨、シッポ）を付ける。 ・凧揚げ（練習） ・凧揚げ大会	外部連携 仙台凧の会 民宿石橋 評価：凧作り、凧揚げを通して、地域の行事「種差海岸観光まつり」への思いや伝統を感じ、ふるさと種差を意識することができたか。
2	津波と沿岸防災 ・津波避難訓練：種差海岸芝生から学校まで避難。 ・校長講話「東日本大震災」 ・防災教室	評価：災害から命を守るための知識を身に付けるとともに、自分の命は自分で守る意識が高まったか。 外部連携 八戸市防災教室支援事業 八戸消防署鮫分署消防司令補
3	みなと見学会 ・講話「わたしたちの生活と八戸港」 ・港湾業務艇「ほくと」乗船	東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所 評価：八戸港の役割を理解し、自分の生活との関わりを考えることができたか。
6	発信 ・中間発表 ・種小タイム発表会 ・参観日での発表 ・資料展示「種差の宝をMIRAIへつなぐ」	評価：自分の考えを持ち、はっきりと伝えることができたか。 評価：中間発表での経験を生かし、自分の考えをまとめ、しっかりと伝えることができたか。 外部連携 種差海岸インフォメーションセンター

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

- ・これまでの学習の成果を発表し、また、友達の発表を聞き、新たな学習へつなげる。
- ・「自分の考えをもち、はっきりと言える子」を目指し、根拠をもって考え、聞き手に分かるように伝えようとする力を育成する。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
種小タイム「中間発表会」 1 はじめのあいさつ 2 研究成果発表 ① 3年：ノハナショウブについて ・大きな絵本形式で発表する。 ・今まで調べてきたことの発表と今後さらに研究を深めていきたいことを発表する。 ② 4年：葦毛崎展望台のヒミツ ・紙芝居形式で発表する。 ・インターネットで調べたことの他に、自らの目と足で得た情報を中心にまとめる。 ③ 4年：鳴き砂のひみつ ・ポスターセッション形式で発表する。 ・インターネット検索の他に数か所の砂を実際に採集して調べ、大須賀海岸の砂が、なぜ、鳴かないのか、今後調べていきたい。 ④ 6年：修学旅行・三内丸山遺跡 報告 ・スライドショー形式で発表する。 ・前半は、修学旅行の旅行記。 ・後半は、3R表彰式のレポートと三内丸山遺跡の見学の様子を発表する。 3 感想発表 4 校長先生のお話 5 終わりのあいさつ	≪中間発表における教師の支援・指導≫ ・多様な発表の仕方があることに気付かせる。 ・発表後、質問されそうなことを事前に予想し、答えを準備しておくよう支援する。本番の発表に生かせるよう指導する。 ・発表の仕方（声の大きさ、話す速さ、指示棒の使い方など）は、教室で練習してきているが、実際に発表してみるとうまくいかないこともあるので、本番の発表に生かせるよう、支援と指導をする。 ・発表内にクイズを取り入れたり、ユーモアを交えたりしながら、聞く人のことを意識した発表になるよう工夫させる。  <b>【評価】</b> ・発表者は、調べたことに対する自分の考えをもつことができたか。 ・発表者は、聞き手に伝わるように、声の大きさ、速さに気をつけて発表することができたか。 ・聞き手は、発表のよいところを見つけながら聞くことができたか。 ・聞き手は、発表に対して自分の考えをもつことができたか。

### 3. 今回の活動の自己評価

- 発表は4つであったが、4つとも違う形態での発表であった。様々な発表形態を見ることができて児童にとって、大変参考になった。
- 中間発表における発表内容はまだまだ不十分であった。他の発表を見聞きしたり聞き手からの感想や質問をうけたりして、今後どのように調べ学習を進め、研究を進めていけばよいのか気付くことができた。
- 今回の中間発表会を通じて、話す側の聞き手に対する意識が高まった。本番の発表が楽しみである。
- 中間発表を終えて、教師間で、中間発表の意義として、  
発表者にとって、調べたことや自分の考えを聞いてもらえて今後の励みになった。  
自分の研究内容の改善につながる。  
他の発表を見て、自分の発表内容をもっとよくするための手がかりが得られた。  
などが挙げられた。
- 児童の、ふるさと種差への誇りと愛着の意識が高まった。

### 4. 今後の課題

- 発表内容が不十分である。自分の興味を持った課題に対して、何を知りたいのか、聞き手に何を伝えたいのかをしっかりと整理して、2回目以降の見学やまとめに取り組む必要がある。その辺の指導をしっかりとしていく。
- 発表時に、原稿ばかりを見て顔を上げることができない。声の大きさや話す速さ、立ち位置、指示棒の使い方など、聞き手のことを意識した発表の経験を積ませていく必要がある。
- 本番の「種小タイム」発表会に向けた取り組みへの意欲、意識を高め、持続させる。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 中間発表は、その時点での児童の実態、よさや課題等を見つけ、その後の指導に役立てるために実施するものであり、そこで完成品を求めるのではなく、内容や態度、技能などをもっとよくするため、高めるために行うと位置づける。ただし、中間発表時においても、その時点での指導をしっかりとっておかないと、失敗し、意欲を失ってしまうことも考えられるので、教師側の共通理解が欠かせない。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

## 活動の様子

3年：ノハナショウブについて  
大型絵本を作って発表



4年：葦毛崎展望台のヒミツ  
紙芝居形式での発表



4年：鳴き砂のひみつ  
ポスター形式での発表



6年：修学旅行・三内丸山遺跡報告  
パワーポイントを使ってのプレゼンテーション



1年生からもたくさんの質問や感想が発表されました。

